

# 連載医療人

財団法人星総合病院 乳がん看護認定看護師 藤田 由紀 氏

更新日：2012年8月1日 水曜日



「いつも穏やかに、笑顔で接したい」

Yuki Fujita

乳がん治療と看護の専門知識を持ち、患者さんやその家族を支援する乳がん看護認定看護師。2008年に東北初の日本看護協会認定「乳がん看護認定看護師」となり、日々乳がん患者さんをさまざまな場面でサポートをしている財団法人星総合病院の藤田由紀さん。藤田さんは、長期的に乳がん治療と向き合う患者さんたちにとって、とても心強い存在になっていることを取材して感じた。穏やかに話す藤田さんの笑顔の源は「患者さんの笑顔」と「家族の笑顔」。乳がん患者さんが増加傾向にある現代、熟練した技術と知識を持つ認定看護師への期待は高まっている。

インタビュー：星 奈美子

## 女性の罹患率が高い疾患だからこそ、同じ女性として丁寧なサポートを

### 乳がん看護認定看護師としての主な役割とは

乳がん患者さんやそのご家族に対するの精神的サポートや、治療・手術等に関する相談、また手術後のボディイメージ変容に対する心理的ケアや、ケア用品の相談など、退院後の生活についての相談も含め、さまざまな場面でサポートさせていただきます。また、外来の診察に同席させて頂いたり、検査の時に患者さんの手を握っていたり、病気を告知する際の同席や告知されたばかりの患者さんのフォローをすることもあります。

現在当院は昨年の大震災の被害を受けて、以前の病院規模の半分のプレハブ外来で診療を行っているため、外来でのフォローは出来ない状況がありますが、病棟で勤務しながら患者さんへのサポートを続けています。乳がんの患者さんのほとんどは、私が勤務している病棟に入院しておりますので、手術の前には必ずお伺いしてお顔を拝見しながらご挨拶させて頂いております。その際、手術後は頻りに足を運ぶようになる旨のお話しをさせて頂きながら、疑問に思っている事や不安に思っている事を伺うような形になります。患者さんの話をゆっくり聞く時間が取れないスタッフも多いので、その分、私が時間を取ってお話を聞いて、それを受け止めて、また患者さんへ返す、そのような形で関わっています。新病院（H25年1月開院予定）が出来て診療が開始したら、また外来の方へも足を運びたいと思っています。

### 頼られる存在だからこそその難しさも

こちらから患者さんの元へ伺ってお話をするのではなく、患者さんの方から「聞いて欲しい」と声をかけてくださる方の中には、気持ちの整理がついている方や、「話を聞いてもらえるだけで安心する」という方もいらっしゃいます。でも、中には「治療に対する副作用が心配」という方や「なるべくなら治療をしたくない」という方もいらっしゃいます。そういう場面では、患者さんがどんな事をどの様に不安と感じているのかを引き出し、患者さんに安心して治療を受けて頂く方向へサポートしたいと思うのですが、なかなか難しいところではあります。どんな時でも、私自身が暗い顔をしていると患者さんも不安になってしまうと思いますので、いつも穏やかに笑顔で接し、まずは患者さんの話しをいつでも「聞いてあげられる存在」で居られれば良いかなと思っています。

### 豊富になったケア用品

乳がん手術後の保護・補整パッドや下着、ケア用品、そして医療用ウィッグなど、最近は素材や種類も豊富になっています。私が外科に来た頃は、患者さんにカタログやパンフレットをお渡しして見ていただくだけの形でしたが、今はたくさんの業者さんからサンプルをお預かりしていますのでフィッティングをして選んでいただくことが出来ます。例えば補整パッドは重さの種類がいるいろいろありますので、必ず手に持った感じとフィッティングした感じを体験して頂いています。また消耗品なので再購入の際は声を掛けて頂くか同じ物を注文していただく形が取られていますが、その際もう一度来院して頂きフィッティングすることもできます。この様に今は患者さんの安心と満足に少しでもつながるように努力しています。



### 笑顔に変わっていく患者さんを見るのが嬉しい

患者さんの表情が明るく変わってきたりすると、この仕事をしていて良かったなと思います。例えば、手術後のケア用品やウィッグのフィッティングをされる前は「やっぱり髪の毛が抜けちゃうんだよね…」とすごく暗い顔されているのですが、実際にフィッティングされて「似合うウィッグがあって良かったね」とか「すごく似合っているね」「全然わからないね」



とお声をかけると、どんどん表情が明るくなっていくんです。

補整下着をフィッティングされて「あーなんか自分おっぱいが戻ったみたい。」と言われる患者さんもいます。そういう声を聞くとやりがいを感じますし、そういう穏やかな笑顔を見てみると「認定看護師をやっている良かったな」ってすごく感じますね。他にも外来などで時々通りかかった時に声を掛けられて「まーっ！会って話したかったの」って言われると「ああ良かったな」としみじみ感じますね。

### 印象に残っている患者さん

認定の勉強に行く前の事ですが、何度も乳がんが再発して入院を繰り返していた患者さんがおりました。その方がだいぶ具合が悪くなって入院していた時期、ちょうど娘さんの結婚式を控えていらっしゃいました。その時にはもう退院できないだろうな、元氣には帰れないだろうなという状況で、娘さんの結婚式まで間に合いそうになかったんですね。でも患者さん自身、自分の為に娘さんの結婚式を前倒しするということは望んでいらっしゃいませんでした。そこでスタッフみんなで話し合いをして、空いていた少し大きな個室の病室を利用して、結婚写真だけでも撮らせてあげようということになりました。

私たち病院スタッフ、娘さんたち、そして式場のスタッフ等の様々な人たちの協力のもと、どうにか病室で結婚式を行い、家族写真を撮ることができました。その後1ヶ月はもたないでその患者さんは亡くなられてしまったのですが、私の中でその時の事が一番印象に残っています。その後、その患者さんの娘さんがお子さんを出産されて時々顔を見せに来ていただきました。辛い面ももちろんありますが、そういう患者さんとの繋がりが励みになることもたくさんあります。



## 認定看護師への道



### 乳がん看護認定看護師の道を選ばれたきっかけ

私は、乳がん看護認定看護師になって5年目になります。元々外科の病棟スタッフとして乳がんの患者さんと関わっていることは多かったのですが、その当時の乳がんに関する知識は自学勉強や経験から得たものが多かったですね。そのような日々の中、「これから先どう進んでいこうかな？」管理職へ進んでいくのか、専門性を求めていくのか、将来について考えた時期がありました。そこでちょっと立ち止まり「これらは乳がんを専門的に勉強して患者さんと関わってきたいな」と思ったのがきっかけで、乳がん看護認定看護師への道を選びました。

### 研修中の大きな支え

研修期間は約半年で、千葉大学大学院看護学研究科付属の看護実践研究指導センターで教育を受けました。私は当時小学生の子供が2人いたので、離れた場所での1人暮らしに寂しさはありましたが、家族の理解や協力で支えてもらえたので途中で諦めようと思ったことはありませんでした。それまで学生時代は同年代の人としか学校生活をしたことがなかったので、「乳がん看護認定看護師」という同じ目標をもった20代から50代までの幅のある学生の方々の中で勉強しているということは、楽しくもありましたし刺激も受けました。特に友達には恵まれ、プラス思考の友達からとても良い影響を受けて励まされながら楽しく実習を受けることができました。今でも乳がんの学会や地方会、認定のフォローアップの研修などの際には、みんなが顔を合わせます。そういう場には全国の乳がん看護認定看護師が集まることもあるので、同期の認定看護師以外にも情報交換などをする機会があります。

### 乳がん看護認定看護師が増えてほしい

福島県には、私以外に乳がん看護認定看護師はいません。東北でも2012年7月2日の時点で6名しかいません。乳がん患者さんが増えている中で熟練した技術と知識を持つ認定看護師がもっともって増えて欲しいなと思います。まずは、認定看護師に興味を持っていただければ良いのですが、そのためにはどうすれば良いのか、それは課題でもありますね。認定看護師を目指す方のための相談会や勉強会などが福島県でも行われるようになれば良いですね。



### 休日の過ごし方

子供の野球の応援に行ったり、ビデオを観たり、買い物に行ったり、車を運転して一人でドライブをしたりします。好きなルートは特にありませんがひとりでも遠方へドライブに行きますよ。

一人でも多くの乳がん看護認定看護師が増えることを望みます。



## 藤田 由紀 氏

所属 看護部 乳がん看護認定看護師

出身 郡山市

略歴 平成5年3月 (財)星総合病院附属高等看護学院卒

\_\_\_\_平成5年4月 (財)星総合病院入職

所属学会 日本乳癌学会 日本がん看護学会 日本乳がん看護研究会



### 関連記事

財団法人星総合病院  
乳癌外科 野水整 氏

県民ボイス  
乳がん検診の大切さ



## 財団法人 星総合病院

〒963-8501

福島県郡山市大町2丁目1番16号

TEL : 024-932-3711 (代)

FAX : 024-939-3141

URL : 星総合病院ホームページ

URL : ピンクリボンin郡山ホームページ

平成25年1月開院予定の新病院

